



彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員ネットワーク
あったかウェルねっとニュース 第42号

2024年3月6日発行

ホームページ <http://attaka2018.starfree.jp/>



あったかウェルねっとの「ウェル(WELL)」は、Welfare(福祉)、Well-Being(幸福)のWell(大切にという意味)で、「温かな心で一人ひとりを大切に思うつながり」でありたい、との願いが込められています。

元日に発生した能登半島地震から2か月以上過ぎました。石川県では240人を超える方が亡くなり、1万人以上が避難所等に身を寄せ、2次避難者も5,000人近いとのこと。水道や道路などインフラの復旧が進み、被災された方々が一日も早く安心な暮らしに戻られるよう願うばかりです。

尊い命のご冥福をお祈りし、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

**温かな心でつながり・学び合う
 誰もが大切なひとり**

2023年度は、総会及び合同研修会をオンラインで行ないました。また、まなびばしゃべりばカフェもオンラインで実施しました。

コロナ禍の期間はほとんどの活動がオンラインとなりましたが、移動による負担の軽減、会場確保が不要などの利点もありました。一方で、オンライン環境がない方の参加の機会が少なくなりました。つながりを大切にするには対面で顔を合わせることも重要と改めて気づきます。対面とオンラインそれぞれの良い面を活かしながら、つながり学び合うことができるよう、みんなの知恵を寄せ合っていきたいと思います。

皆様のご意見をお寄せください。



**5月18日
 是非！
 ご予定を！**

お知らせ 総会・研修会の日程

**2024年度ねっと総会と研修会
 日程が決まりました！**

毎年5月におこなっている総会及び研修会の2024年度日程が決まりました。

研修会の基調講演には原田正樹先生をお迎えします。今からご予約に入れていただけますようお願いいたします。

月日： 2024年（令和5年）5月18日（土）
 会場： すこやかプラザ2階セミナーホール
 総会： 11時00分から
 研修会： 13時00分～16時00分

研修会は、あったかウェルねっと、若者への福祉教育研究会、地域福祉推進プラットフォーム（埼玉県社会福祉協議会）との合同開催となります。

～研修会概要～

[基調講演]原田正樹氏（日本福祉大学 学長）
 「地域共生社会～世代や分野を超えてつながるには～」

[事例発表]木野ゆずき氏（視覚障害者と仲間
 の集まり「いどばた」、声なびシネマ
 わかば 両代表）
 「自立と社会参加を目的に『いどばた』
 20年の歩みとこれから」

[対談] 原田正樹氏・木野ゆずき氏

[リレートーク]

「知り・学び・考え合い未来につなごう」

コーディネーター：深田耕一郎氏

(女子栄養大学 准教授)

若い世代からの発信：10分スピーチ×4名

[グループワーク&トークセッション]

[まとめ] 原田正樹氏

※詳細については、決まり次第お知らせします。

参加申し込みはその後にお願いします。



2023年度の主な活動をご報告します。

報告 2023年度ねっと研修会

2023年度研修会 (5/21)

埼玉県社協プラットフォームと合同開催

2023年(令和5年)5月21日(日)、オンラインにて「地域で共に生きる～『幸せなみらい』に向けてともに歩むには～」をおこないました。

第10回地域福祉推進プラットフォーム(埼玉県社協)との合同開催で、73名が参加しました。

[基調講演]

講師：原田 正樹氏(日本福祉大学 学長)

「地域共生社会とは」

原田正樹氏による基調講演「地域共生社会とは」では、多様な地域課題と地域の役割について、福祉教育の視点からお話を伺いました。地域共生社会と共生社会、「地域」がついているかいないかの違いを意識すること、関係性の中で自立を捉える相互実現的自立、相互に支え合うことの意味に気づく等々、大事な視点を学びました。

[シンポジウム]

コーディネーター：川田 虎男氏(聖学院大学)

ボランティア活動支援センター)

シンポジスト

高橋 奈穂氏(一般社団法人レク寺子屋)

平野 千恵氏(おおぞら高校川越キャンパス)

続くシンポジウムでは、コーディネーター川田 虎男氏より「与えることで与えられるもの」と題し、大学ボランティアセンターでの復興支援の取り組みから「与えることで奪うもの・与えられることで与えるもの」、そして「与えることで与えられるもの」の事例を伺いました。

多様な主体がつながることで地域をともに創っていく社会についての示唆をいただき、その後、二人のシンポジストの登壇となりました。

高橋 奈穂氏は、一般社団法人レク寺子屋(坂戸市)の活動を通じて「多様な個性を知ることから始まる～地域から広げたい国際交流～」について様々な事例をもとに発表されました。

外国人支援事業、多文化多世代交流イベントの実施、だれでも食堂、シェアかふえ、その他の活動を紹介し、未来につなげたい「ともに歩むための3つの想い」を語られました。

- ① 「個人を助けられない個人情報保護」ではなく「助けるための情報共有」
 - ② 対応している本人だけではなく、その支援者のことも知り丸ごと支援する
 - ③ 「知る」ことから生まれる理解と多様性の受け入れ
- とのことでした。

平野 千恵氏は、おおぞら高校川越キャンパスの教員として、生徒との「出会いとつながり～みらいを描く力を身につける～」で熱意を込めて発表されました。

「なりたい大人になるための学校」おおぞら高校では、教員は先生ではなく「コーチ」と呼ばれます。ティーチング（提案）とコーチング（質問）のバランスは生徒の状況に合わせて変わっていき、全コーチが、卒業時の理想の生徒像「なりたい大人像をもった人」に対し共有共感できている状態とのこと。その道のりでは、みらいを描く力の過程を大切にしていることが分かりました。

参加者の中に卒業生の橋本凜さんがいて、自身の成長のターニングポイントを聞かせてくれました。コーチの声掛けで検定試験やボランティア活動に挑戦するまでになり、チャレンジは怖いことではないと知ったとのこと。ロールモデルとの出会いもあり「円熟したおとなになる」という目標を持ったそうです。みらいを描く過程を生き活きと伝えてくれました。

平野氏は終わりに、なりたい大人像はなんですか？との問いで締めくくられました。

シンポジストお二人の話しから、ともに歩むための3つの想いも、みらいを描く力も、「共に学び、共に生きる」につながるものと感じました。

[グループワーク]

グループワーク「互いに学び合う福祉」では、各自の気づきを聴き合い、その後のトークセッション「幸せなみらいに向けてともに歩むには」で参加者全員での情報共有をしました。

原田 正樹氏と川田 虎男氏によるまとめでは、「支え上手と支えられ上手」、つながることが力になる「伴走型支援」等々、今後につながる学びをいただきました。

〈参加者の感想より〉

- 相互実現、地域共生社会、役割が大切など、聞いたことがある言葉が改めて、意味が内容を持って分かった気がします。
- 自分が思っていた事を言語化していただい

た様な、解りやすいお話だった。十分満足できた。

- 共生社会と地域共生社会の違いや役割を持つこととの大切さ、役割があつてこそケアリングコミュニティの実現など、学びが多く充実していました。
- 今日は福祉を考える上での“軸”になるお話を聞けたように感じました。地域づくりに向けた支援として「交流・参加・学び」の機会をコーディネートすることが大切と知り、これから経験を詰み、私もそうできるようになりたいとも思いました。
- 事例や橋本さんの生の声を聞いてよかったです。
- どんな角度でも、地域共生社会につながると感じました。
- 進行の方々の工夫や(顔写真お面のように合わせてのお話しがあつたり)先生方が被り物をしていたり、全体的にずっと楽しい雰囲気でした。Zoom 特有のシーンとした空気は全く感じられず、まるで人と顔を合わせているくらい和やかな空気感のおかげで、緊張が一気にとれて安心して参加することができました。

報告 まなびばしゃべりほカフェ

2023年度は、夏カフェと冬カフェをそれぞれ2回ずつおこないました。話題提供の皆様、ご参加の皆様、ありがとうございました。

まなびばしゃべりほ夏カフェその1(7/6) 多文化共生社会と「やさしい日本語」

話題提供者：高橋 奈穂氏

(一般社団法人レク 寺子屋代表)

7月6日(木)、わかりやすい言葉や表現に言い換えた「やさしい日本語」と、多文化

共生について学び合いました。5月の研修会に登壇された高橋氏にさらに深めるお話しをしていただきました。

日本で暮らす外国籍のかたたちにとって暮らし易さには多くの課題があります。やさしい日本語の「やさしい」には「易しい」と、相手に配慮する「優しい」気持ちで話す、といった二つの意味がこめられています。

「土足厳禁」では伝わりにくくても「靴を脱いで」なら通じやすいし、「どうぞ召し上がってください」⇒食べてください、「明日はちょっと・・・」⇒「明日はダメです」

「あさってならできます」などの具体例も挙げつつ、みんなで考え、学び合いました。

結論を分かり易く伝えることも大事、そして、多文化・共生・地域には様々な人がいる等、多方面にわたり深く考え、気づき合う時間になりました。(19名参加)



まなびばしゃべりば夏カフェその2(8/18)
「彩の国いろどりライブラリー」について

話題提供者：成中 琢也氏
 (埼玉県福祉部障害者福祉推進課)

8月18日(金)、「彩の国いろどりライブラリー」について情報提供いただきました。

共生社会づくり(障害者差別解消)に向けた県の取り組み「彩の国いろどりライブラリー」の説明があり、「県民の方に障害当事者

講師による福祉教育の取組みを広く知っていただくとともに、講師人材にアクセスできる機会となる」ものだそうです。今後、県ホームページ掲載、運用詳細の提示などがあるそうです。(19名参加)

まなびばしゃべりば冬カフェその1(12/14)
僕が介護食ユーチューバーになったわけ

話題提供者：車いす料理人 田島 勇弥氏
 (鶴ヶ島市在住)
 インタビュアー:牧野郁子氏(鶴ヶ島市社協)

12月14日(木)、若年性の脊髄小脳変性症を発症しながらもYouTubeで発信中の田島氏にインタビュー形式でお話しを聞きました。

「介護食づくりインストラクター」「介護食マイスター」の資格を取り、食べる力かむ力が弱くなっている人たちに選択肢があるということをYouTubeやインスタグラムで発信しています。元は料理人。SNSには色とりどりのご馳走が並びます。友人の言葉に後押しされて「大切な人たちが喜んでくれる料理をやりたい!」との思いで料理イベントを開催。これからも、嚥下障害があっても工夫次第で「食事を楽しむ」ことができることを発信し続けていくそうです。

優しい語り口にはお人柄も表れて、美味しいと同時に豊かな食事、豊かな暮らしが目の前に広がるようでした。(16名参加)



↑ YouTube
 介護食とたじ



まなびばしゃべりば冬カフェその2(2/11)
福祉教育は「福祉」+「教育」
 ～福祉と教育の力を合わせた福祉教育の挑戦～

話題提供者：高田 悟郎氏 公立小学校事務職員、社会福祉士（さいたま市在住）
 インタビュアー：川田 虎男氏（若福研）

脳性まひによる右片麻痺の障害を持つ高田氏は、「もっと障害のある人に優しい社会になってほしい」という思いから、社会福祉士を取得後、公立小学校の事務職員をしながら、勤務校の福祉教育に携わるようになったそうです。

校舎入口の手すり、玄関に椅子を置く等、高田さんが過ごしやすい環境は誰にとっても便利で居心地が良いもの。学校や地域で生徒たちと接する中で「気づき」と「思いやり」が自然と伝わることも多いとか。

今は「福祉教育の授業でしっかり伝えることができるように」と学校の先生方に期待しているそうです。福祉と教育、その両方を合わせて生徒達に伝えてもらいたいという思いが強くあり、教育の専門家である先生方に今後も伝えていきたいと結びました。

(19名参加)



職員向けの事務だより
 に「ちょこっとふくし」
 というコラムを掲載中



報告 いろいろ

(1) 推進員養成講座等の講師依頼を受けて、事務局で対応しました。

- ・8月3日（木）令和5年度伊奈町若手教員研修会（伊奈町教育委員会）
- ・8月23日（水）令和5年度福祉教育サポーター養成講座（狭山市社会福祉協議会）
 荒田孝平氏（三芳町視覚障がい者の会ひとみ）と二人で伺いました。
- ・2024年2月22日（水）福祉教育・ボランティア学習推進員養成講座（ビデオ講座）（三芳町社会福祉協議会）

ボランティアや推進員の高齢化、コロナの影響で養成講座が実施できなかった等で、現在は推進員の養成が急務のようです。あったかウェルねっとでも同様です。みんなで学び合っていきましょう。

(2) 埼玉県福祉部障害者福祉推進課の障害者施策推進協議会ワーキングチームへの出席を依頼され、7月19日、10月17日に参加しました。内容は「彩の国いろどりライブラリーの運用開始に向けた検討について」その他。

(事務局・須田)

※ 若者への福祉教育研究会コーナーはお休みします。

県社協からの情報

**今年度の地域福祉推進プラットフォーム
 実施報告**

今年度も標記事業にご協力・ご参加いただきありがとうございます。

【第11回「誰かの困ったをみんなの力に～誰

もが誰かの力になる学び合いの地域に～」(8月4日)】

「ともに生きる力をはぐくむ～小・中学生が活躍する地域づくり～」をテーマに鶴ヶ島市社会福祉協議会の大井清子氏、原埜恵李氏、鶴ヶ島市立西中学校教諭の石川ちづ子氏から実践報告、「子どもを中心とした地域づくり～ふだんのくらしのしあわせを大人と子どもが共に育む：ふくし共育～」をテーマに福井県池田町社会福祉協議会事務局長の廣田和美氏から実践報告をいただきました。

【第12回「福祉教育の受け手側の気持ちを知ろう！～一方通行の福祉教育にしないために～」(11月18日)】

「福祉教育、実際どうだった？」をテーマに、川口市青少年ボランティア部の部員6名から、福祉教育を受ける側の意見・考えを伺いました。

【第13回「災害支援のために『私たち』ができること」(3月1日)】

「被災地社協のリアル～大規模災害と社協の役割と実態～」をテーマに一般社団法人BIGUP石巻代表理事の阿部由紀氏によるミニ講義、「社協、民生委員、ボランティア、市民、それぞれの立場で何ができるか」をテーマに阿部氏と川越市内で災害(台風21号)を経験された自主防災会、元民生委員、社協職員によるトークセッションを行いました。

来年度も引き続き開催しますので、ぜひご参加ください。

事務局情報

情報提供のお願い

～各地域の福祉教育情報をお寄せください～
日頃の活動や地域の状況、感じたこと、福

祉課題などの情報をお寄せください。会報、メーリングリストその他で共有させていただきます。

皆さまからの情報をお待ちしています。

ねっと事務局 須田 049-283-1865(FAX)
事務局アドレス attakawelnet@gmail.com

会費振込先のお知らせ

ねっと活動は会員の会費(年1000円、賛助会員一口500円)で運営しています。

原則として口座振り込みとなりました。振込手数料についてはご負担をお願いいたします。

振込先：埼玉りそな銀行武蔵浦和支店
普通預金口座番号：5015782
名義：彩の国福祉教育ボランティア学習推進員ネットワーク

メーリングリストの登録

会員・賛助会員の方にはメーリングリスト(ML)で情報をお届けしています。登録希望の方、またアドレスの変更がありましたらお知らせください。

編集後記

11ヶ月ぶりの発行になりました。報告事項ばかりとなりましたが、この中にご縁やつながりが溢れていることに改めて気づきます。様々な出合いをいただけるのも地域のネットワークならではの。これからもあったかウエルねっとらしく温かなつながりを紡いでいきたいですね。5月18日の総会・研修会でお会いしましょう！

発行：彩の国福祉教育・ボランティア学習推進員
ネットワーク(通称：あったかウエルねっと)
編集：あったかウエルねっと(情報担当)
連絡先：埼玉県社会福祉協議会地域活動支援課
TEL：048-822-1435 FAX：048-822-3078
Mail：vc@fukushi-saitama.or.jp